

## 雪の北海道

2/15/2014

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

関東地方が大雪に遭った翌々日から一路北海道へ。今回は「さっぽろ雪まつり」を楽しむ旅行でした。その他に、支笏湖の巨大な氷像が並ぶ「氷濤まつり」、ペンギンの行進で有名な旭山動物園、そして雪の小樽の街並みを歩いてきました。特に、今回は雪まつりの最終日とあって大変な賑わいで多くの東南アジアの人、韓国人の姿が見られました。また最終日の朝には零下8度にも関わらず、ショベルカーで壊す雪像大破壊の見学もしてきました。

幸い北海道では3日間とも天気にも恵まれました。これは、一緒だったバスガイドが前日に「ニサツタピリカクニネ」(アイヌ語で明日天気になあれ!!)と、おまじないをしてくれたということの影響かも知れません。自宅に帰った翌々日からは関東はまたまた大雪。旅行中は本当に天気にも恵まれました。

初日の羽田出発は7時だったので、始発の電車にりましたが、結構乗客がいるものだと思います。北海道に到着後ツアーバスで支笏湖へ。ここは巨大な氷像が並ぶ「氷濤まつり」がおこなわれていました。この制作には町民が11月頃より開始し、年始より24時間体制で水を散布して人工的に氷像を作ったというものでした。観光客集めとはいえ大変なご苦労があります。



写真は、その氷でできたトンネルの中にある「氷の水槽」です。屋台も含めて、本当に町民手作り感満載のお祭りでした。

2日目は、人気のある旭山動物園でした。伊達市にある北湯沢温泉(この朝はマイナス10°C)をツアーバスで出発してから約3時間で旭川市に到着。この「旭」はアイヌ語で「東から昇る太陽」ということで旭川は「日のあたる川」ということでした。「札幌」の地名もそうですが、とにかく地名にはアイヌ語が多く使われているようです。

一般の動物園であれば冬はお客数が少ない時期であるにも関わらず、ここでは大勢の人で混雑していました。もちろん、冬季限定の「ペンギンの散歩」を見たいからでしょう。しかし、この動物園では、いろいろな工夫がされているのです。まず、自然に近い形で動物の動きが見られることです。ですから、動物が檻の中に入っている感じはありませんので、入園者にとって動物とは至近距離で接することができるのです。そのためか一昨年、フラミンゴが逃走(?)したとのこと。普通なら飛べないように羽根を落とすのですが、ここではそのようなことはしていないことが逃走の原因になったのかも知れません。



また、ここでは動物が主人公ですので、影響があるカメラフラッシュによる撮影は厳禁です。そのためか、いたるところに「ガイド」が立って、マイクでお願いしておりました。また、ペンギンの行進が始まる前には、飼育員からの説明が

ありました。その内容は、「皆さん、ペンギンの散歩を見て可愛いと思われるでしょう。しかし、多くの動物たちは絶滅の状況にあることを忘れないでください。動物も人間も自然界で共生しているのです。」と。多くの入園者の胸にその言葉が入ったことと思います。

実は、この動物園は閉園寸前まで追い込まれたそうですが、職員がこれまでの動物園の発想を変え、動物本来の姿、つまり自然の姿を見てもらうことはどうかということから、改革が始まったようです。何でもそうですが、既定路線の上に胡坐をかいていると成長はないようです。

旭山動物園行き帰りの前後には、ツアーバス特有の”買い物ツアー”が企画されており、お土産コーナーは人だかりでした。人気なのは新鮮な牛乳を使ったソフトクリームでしたが、味は格別でした。その他には、かにの販売などがあり買い求めている人が大勢いました。やはり、北海道は観光立国です。

その夜、今年で 65 回目を迎えた「さっぽろ雪まつり」です。当初市内の中高校生によってつくられ始めたと聞きました。大通公園に並ぶ大小の雪像。本当に見事でした。オリンピックの開催年とあって、選手の様子や雪像、また小柄なジャンプ台では実際に AirJump が繰り広げられて観客の歓声を浴びていました。また、雪像にプロジェクターを当てるプロジェクションマッピングは、多くの観客を集めていました。食のコーナーでは、北海道中から集まった屋台が所狭しと並んでおりました。夜の食事はここで済ませることにし、カニの足やラーメン、カニ汁、ホタテ貝、いか飯などを堪能しました。

翌日は、雪像の解体があるというので、ホテルを 8 時に出発。徒歩で会場の大通公園に向かい、陸上自衛隊の解体式と解体を見学することができました。あまりの寒さに 30 分程で退散しましたが、ショベルカーによって雪像は瞬間に解体され、見物客から壊されるたびにドヨメキがあがっていました。



午後は雪の小樽の街散策です。明治半ばから大正、昭和にかけて、にしんの豊漁とともに小樽の経済が全盛を極めていたころの石造りの商家やモダンな洋館が立ち並ぶ街並みは現在の日本の中でもまれなものと言えましょう。それも、昭和 60 年代から町をあげて建築物を保存する運動が行われ、現在にいたっているとのこと。ただ保存だけでなく、多くの店はその保存している建物の中を利用し、洋菓子店やガラス工房などを営んでいるのです。古いものを活かした街づくり、そんな地元のやり方に共感を覚えます。



←旭山動物園の自動販売機  
3 台とも違うメーカーのものですが、図柄は氷山の中の動物です。このような自販機を園内で数か所見られました。

以上